

生駒市農業ビジョン推進懇話会 第14回会議録 (要点筆記)

1. 開催日時 平成31年3月28日(木) 午前10時00分～午前11時00分
2. 開催場所 生駒市役所 4階 403・404会議室
3. 参加者 池上氏(座長) 井上氏(副座長) 石丸氏 上武氏
高枝氏 樽井氏 中世古氏 中田氏 中村氏 (五十音順)
(事務局) 林農林課長 巽農林課課長補佐 桑田農林係員
4. 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし
5. 議題 (1)生駒市農業ビジョン策定について
(2)生駒市の「人・農地プラン」について
(3)その他

6. 審議内容

(1) 生駒市農業ビジョン策定について

事務局 (資料1に基づき説明)

[概要]

農業ビジョン素案を作成したので、資料に基づき一通り説明。

座長 素案の説明をして頂いたが、皆さんで意見を出し合って、わかりやすく市民に見てもらえ、わくわくするようなビジョンに変えて頂けたらと思う。

参加者 現状、市内農家の給食に出荷している農作物が限られているが、色んな食材を出せるようにできないか。

事務局 出荷規格に合った農産物を規定量出荷するのが難しかったり、個人では出荷数量に限界があるため、実績としては出荷しやすい玉ねぎ等に限られている。前日になって出荷できないという事態になると給食センターも困るので、ある程度の量を出せるのであれば、実績のない野菜でもご相談いただきたい。

なお、米について、給食センターでは奈良県産のものを使用しているが、生駒市産単独の米を出荷できないか検討中である。

参加者 個人では、出荷量が確保できなかったり、不作の時に対応できないという課題があるのであれば、仲介組織や調整役を作るか、育てることにより、個人から寄せ集めれば給食への出荷を拡大できるのではないか。

座長 地産地消推進のため、学校給食への出荷に力を入れるのであれば、仲介役を育成する等、組織化が必要であり、出荷安定化と計画的事業遂行を図ることができる。

参加者 地場野菜等の魅力の向上と消費者が購入できる機会拡大のためのロゴマーク等と素案に記載されているが、現在実施しているものか。

事務局 現在はロゴマークは作成していない。地場野菜の魅力、認知度向上のため生駒産であることが一目でわかるようなロゴマーク等を表示できればと考える。

座長 儲かる農業と農業への都市住民の参加という施策が掲げられているが、小規模農家への施策という観点での記載が抜けてしまっている。自給的農家の未流通野菜の流通促進は、自給的農家を年間販売額50万円以上の販売農家に押し上げる小規模農家への支援であるという観点を記載するべきである。

参加者 農業体験の実施については、市が学校に声掛けを行うのか。

事務局 市で行っている農業体験の他、農家個人が行っている取組などを周知し、農家と保育園・幼稚園とを仲介することにより、農業体験の実施を促進していきたい。

座長 農福連携の取組に、高齢者も対象としてほしい。健康づくり等、農作業により寝たきりを防止するといった視点も必要。また、政策レベルの話になるが、農福連携には、障がい者の方に作業を教えられるトレーナーが必要であり、そういった人材の養成も意識してほしい。

座長 スマート農業について、生駒市に適した形での具体案を盛り込んでほしい。植

物工場という形は日本ではほぼ赤字となっており、多額の投資を行っても、儲かる農業には繋がらない。高齢者の農業を支援できるような、草刈りロボット・アシストスーツ・いのししのドローンによる調査などのスマート農業を検討してはどうか。

座長 各施策の実施体制について、盛り込めるところにはJAを記載した方がよいのではないか。

事務局 素案に「農業関係団体」と記載してあるところは、JA等関係団体に関与して頂きたいと考えておりますが、具体的に名前をビジョンに記載するのを避けたためです。具体的に関わって頂ける施策があれば記載したい。

参加者 素案には、課題とそれに対する施策が個別に記載されているが、これだけでは具体的にどういった事業を行い、それによってどんな成果を目指すのかが見えてこない。プロジェクトという形で重点施策とその達成目標を記載し、農業ビジョンによる成果を確認しやすくしてはどうか。

座長 個々の項目の関連性をポンチ絵などでわかりやすく表現し、計画の進行管理についても、5年後の生駒の農業がこうなっているという目標像を前提とした方が、実効性が上がるのではないか。

座長 竹林整備の結果産出される竹材を竹製品に利用し、インバウンド効果のような観光とも結びつけ、竹林整備の推進につなげるというような循環を作れないか。
また、竹林整備に里山も追加し、農林行政として里山も整備、保全・活用するという方向性を示してほしい。

座長 食育について、こどもだけを対象とするのではなく、定年退職者向けの男の料理教室や子育て世代の母親を対象とした料理教室のように生涯学習という観点で食農教育に盛り込んでもよいのではないか。

事務局 今後の予定について、パブリックコメント（案）の報告を6月議会に諮り、7月にパブリックコメントを実施。それを受けた懇話会を開催し、9月議会にパブリックコメントの結果を報告する予定である。

また、本素案について持ち帰って検討していただき、意見があれば、4/10までにご連絡いただきたい。

次回懇話会は、本日の懇話会の結果や皆さんの意見を反映させ、生駒市農業ビジョン（案）を議題とし、5月の連休明け頃に開催したい。

（2）生駒市の「人・農地プラン」について

事務局 （資料2に基づき説明）

〔概要〕

今後の地域の中心となる担い手として、認定新規就農者及び認定農業者の計2名を追加した。合計7名の中心経営体に農地を集積していくプランで承認を諮ったところ、全員一致で可決した。